



平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月10日

上場会社名 平和紙業株式会社

上場取引所 大

コード番号 9929 URL <http://www.heiwapaper.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小島 勝正

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理統括本部長 (氏名) 坂本 正夫

TEL (03)3206-8501

四半期報告書提出予定日 平成23年8月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|-------|-------|------|-------|------|-------|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 24年3月期第1四半期 | 4,740 | △10.2 | 8 | △72.7 | 24 | △48.2 | 2 | — |
| 23年3月期第1四半期 | 5,280 | △2.1 | 30 | △33.6 | 47 | △27.8 | △1 | — |

(注)包括利益 24年3月期第1四半期 △31百万円 (—%) 23年3月期第1四半期 △102百万円 (—%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 24年3月期第1四半期 | 0.23 | — |
| 23年3月期第1四半期 | △0.19 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|--------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 24年3月期第1四半期 | 16,103 | 7,305 | 45.4 |
| 23年3月期 | 16,315 | 7,386 | 45.3 |

(参考)自己資本 24年3月期第1四半期 7,305百万円 23年3月期 7,386百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 23年3月期 | — | 5.00 | — | 5.00 | 10.00 |
| 24年3月期 | — | — | — | — | — |
| 24年3月期(予想) | — | 5.00 | — | 5.00 | 10.00 |

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|-----------|--------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 9,740 | △6.7 | 64 | △47.9 | 76 | △48.9 | 26 | △33.0 | 2.63 |
| 通期 | 20,000 | △5.0 | 202 | △32.6 | 223 | △34.5 | 100 | 40.5 | 10.13 |

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ「サマリー情報(その他)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 24年3月期1Q | 10,116,917 株 | 23年3月期 | 10,116,917 株 |
| ② 期末自己株式数 | 24年3月期1Q | 248,033 株 | 23年3月期 | 247,733 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 24年3月期1Q | 9,869,069 株 | 23年3月期1Q | 9,893,294 株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する定性的情報 | 3 |
| (3) 連結業績予想に関する定性的情報 | 3 |
| 2. サマリー情報（その他）に関する事項 | 4 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 4 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 4 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 7 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第1 四半期連結累計期間 | 7 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第1 四半期連結累計期間 | 8 |
| (3) 継続企業の前提に関する注記 | 9 |
| (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響で急速に落ち込んだものの、寸断されていたサプライチェーン（供給網）が徐々に復旧するのに伴い、ここにきて持ち直しの動きをみせています。しかし、震災による景気の下振れ圧力はいぜん根強く、年度初めの自粛ムード等を背景に民間需要を中心とした内需の回復ペースは、弱く緩やかなものに留まっています。また企業収益の面でも、震災発生に伴う部品工場の操業停止や物流の停滞による生産の減少に加え、円高や原油価格の高止まりの影響を受けて、その伸び率は低下する傾向となっています。その一方で4月以降、商品の供給不足に対する消費者の不安心理が徐々に和らぐなか、個人消費の悪化傾向は下げ止まりの気配を見せており、今後緩やかに持ち直していくことが期待されます。

紙業界におきましては、紙・板紙の国内出荷量は前年同期実績を下回りました。板紙については、エンドユーザーの在庫補充に加え、夏場に予想される節電対応による前倒し需要もあり、段ボール原紙、白板紙の国内出荷が前年同期実績をわずかながら上回りました。一方、印刷情報用紙においては、主力製紙工場の被災による生産停止や震災以降の需要減少の継続によって、前年同期実績を下回りました。特にカタログ・パンフレットやチラシ等商業印刷用途向けの塗工印刷用紙は3ヶ月連続の減少で、5月には減少率がやや回復したものの、6月では再び拡大しております。

このような環境のなかで、当社グループは第7次中期経営計画の最終年度を迎え、特殊紙販売の原点に立脚した全社的な収益確保と環境対応紙への新たな取組みを主軸に、高収益基盤の体制づくりを最重要の課題として取り組んでまいりました。しかしながら、当社が主力としているファンシーペーパー、ファインボード、高級印刷紙の特殊紙3品目をはじめ、ベーシックペーパー、技術紙、その他を含めた取扱い商品6品目総てにおいて、前年実績を下回りました。その結果、売上高は47億40百万円（前年同期比10.2%減）となりました。利益面では経常利益が24百万円（前年同期比48.2%減）、四半期純利益は2百万円（前年同期は四半期純損失1百万円）となりました。

今後も引き続き特殊紙の販売を基軸に据え、世界的潮流である地球環境問題への取組みの観点から、持続可能な社会にむけて貢献できる紙素材である再生紙・非木材紙・森林認証紙・間伐材紙等の「エコロジーペーパー」を普及、拡販することに尽力してまいります。さらに、有力な機能紙メーカーと共に、特殊機能紙など将来性のある新規商材の開発に向けた努力を、一段と進めてまいります。

<当社の商品別の概況>

当社グループは、和洋紙の販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであり、当社の和洋紙卸売業の売上高は連結売上高の90%超を占めるため、当社の商品別の概況を記載しております。

| 品目別 | 前第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | | 当第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | | 増減率 (%) |
|-----------|---|---------|---|---------|---------|
| | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | |
| ファンシーペーパー | 1,395 | 27.4 | 1,279 | 28.0 | △8.3 |
| ファインボード | 603 | 11.9 | 534 | 11.7 | △11.4 |
| 高級印刷紙 | 1,176 | 23.1 | 1,102 | 24.1 | △6.3 |
| ベーシックペーパー | 1,299 | 25.5 | 1,083 | 23.7 | △16.6 |
| 技術紙 | 516 | 10.1 | 473 | 10.4 | △8.3 |
| その他 | 101 | 2.0 | 95 | 2.1 | △6.4 |
| 合計 | 5,092 | 100.0 | 4,569 | 100.0 | △10.3 |

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

[ファンシーペーパー]

独特の風合いや色で差別化を図るファンシーペーパーは、化粧品パッケージ、出版物カバー・見返し、封筒、手提げ袋等幅広く採用されました。しかし、全国的な観光地集客不調により酒ラベル、菓子パッケージ等のお土産用途に使用するファンシーペーパーも減少しました。

その結果、売上高は12億79百万円となり前年同期比8.3%の減少となりました。

[ファインボード]

包装材としての美しさや高級感にて訴求力のあるファインボードは、贈答品のパッケージ、DVD・CDケースに色カード、植毛紙が数多く採用されました。しかし、主力商品である光沢を持たせたアルミ蒸着紙やパール調の板紙が不調に終わり、全体の数字に大きく影響しました。

その結果、売上高は5億34百万円となり前年同期比11.4%の減少となりました。

[高級印刷紙]

環境対応型商品を主力とした印刷仕上りの良さを追求する高級印刷紙は、環境報告書、化粧品カタログ等幅広く採用されました。しかし、震災の影響による出版物の発売延期やコンサートなどの延期・中止により出版物表紙、カバーやコンサートパンフレット等が減少しました。

その結果、売上高は11億2百万円となり前年同期比6.3%の減少となりました。

[ベーシックペーパー]

一般的な印刷物に幅広く使用されるベーシックペーパーは、一般商業印刷物やチラシ向けに塗工紙、上質紙、色上質紙などが採用されました。しかし、商業印刷物の需要不振だけでなく、震災による製紙メーカーの工場被害や流通手段障害の影響で、紙の供給面に問題が生じて前年同期実績を下回りました。

その結果、売上高は10億83百万円となり前年同期比16.6%の減少となりました。

[技術紙]

技術紙におきましては、精密機器製造時に使用する台紙や防虫効果をもたせた台紙等の販売が好調に推移しました。しかし、技術紙の主力商品のひとつである電飾向けパネル用合成紙の生産が延期・中止となる等、震災以降の全国的な節電による影響がありました。

その結果、売上高は4億73百万円となり前年同期比8.3%の減少となりました。

[その他]

トイレットペーパー、ティッシュペーパーを中心とした家庭紙は、輸入品の取扱い拡大といった販売競争の激化により売上を伸ばすことができませんでした。また製紙関連資材やオンデマンド印刷に使用するインクジェット用紙も低調に推移しました。

その結果、売上高は95百万円となり前年同期比6.4%の減少となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べて2億11百万円減少して、161億3百万円となりました。主な増加は、商品2億9百万円であります。主な減少は、現金及び預金1億62百万円、受取手形及び売掛金2億84百万円であります。

負債は、前連結会計年度末に比べて1億30百万円減少して、87億97百万円となりました。主な増加は、短期借入金47百万円であります。主な減少は、支払手形及び買掛金92百万円、賞与引当金1億円であります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて81百万円減少して、73億5百万円となりました。主な減少は、利益剰余金46百万円、その他有価証券評価差額金30百万円であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の日本国内の景気見通しにつきましては、製紙メーカーの被災工場の操業再開に伴う供給力のアップや耐久消費財の販売増加によりプラス成長には転じるものの、電力不足の問題が景気の下押し圧力として働くことから、その歩みは力強さに欠けるものになると予想されます。また年度後半においては、復興需要による大規模な公共投資や、消費者マインドの改善を受けたサービス消費が持ち直すことが期待されます。

紙業界におきましては、復興経済による景気への影響の出始めるのが年度後半と予測されます。また、震災後の自粛ムードで一気に落ち込んだ広告宣伝需要も、広告媒体の紙離れも手伝ってその本格回復にはまだ時間がかかるものと予測されることから、印刷情報用紙の需要回復についても厳しい状況がしばらくは継続するものと思われま

す。当社グループといたしましては、震災後の厳しい状況下ではあるものの、本業である紙流通の原点に立ち戻り、お客様各位にご不便をおかけしないための供給体制を、全社一丸となって確保・維持していく所存です。また、従来からの取扱い商品のさらなる拡充、顧客ニーズに沿った効果的な用紙提案、常備在庫品の安定供給および物流面での対応等、あらゆる面でお客様へのサービスの徹底をこれまで以上に図ってまいります。

さらに、収益確保の観点から、オリジナル品を中心としたファンシーペーパー・ファインボード・高級印刷紙に加え、今後の市場性が見込める特殊機能紙の開発と拡販のために、幅広い需要家層への積極的な提案営業をさらに力を入れて実施いたします。また、組織の活性化を通じて、業務全体の一層の効率化を確実に推し進めてまいり所存です。

なお、平成24年3月期の連結業績につきましては、以下の通り見込んでおり、平成23年5月13日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

<平成24年3月期連結業績予想>

| | | |
|---------|-----------|--------------|
| 連結売上高 | 20,000百万円 | (前期比 5.0%減収) |
| 連結営業利益 | 202百万円 | (同 32.6%減益) |
| 連結経常利益 | 223百万円 | (同 34.5%減益) |
| 連結当期純利益 | 100百万円 | (同 40.5%増益) |

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

棚卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算定に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ、簿価切下げを行う方法によっております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日) |
|-------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,488,974 | 2,326,740 |
| 受取手形及び売掛金 | 6,524,727 | 6,239,949 |
| 商品 | 3,090,370 | 3,300,324 |
| 貯蔵品 | 85,909 | 86,184 |
| その他 | 205,050 | 203,825 |
| 貸倒引当金 | △15,831 | △15,510 |
| 流動資産合計 | 12,379,202 | 12,141,513 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 1,209,867 | 1,202,242 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 53,151 | 46,507 |
| その他 | 192,014 | 247,491 |
| 無形固定資産合計 | 245,166 | 293,998 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 1,624,772 | 1,565,171 |
| その他 | 894,872 | 938,771 |
| 貸倒引当金 | △38,823 | △38,413 |
| 投資その他の資産合計 | 2,480,821 | 2,465,529 |
| 固定資産合計 | 3,935,856 | 3,961,771 |
| 資産合計 | 16,315,059 | 16,103,284 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 5,525,063 | 5,432,739 |
| 短期借入金 | 2,364,690 | 2,411,814 |
| 未払法人税等 | 49,560 | 4,055 |
| 賞与引当金 | 125,406 | 25,077 |
| その他 | 228,267 | 303,718 |
| 流動負債合計 | 8,292,987 | 8,177,405 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付引当金 | 419,754 | 417,233 |
| 役員退職慰労引当金 | 99,441 | — |
| 資産除去債務 | 74,758 | 75,136 |
| その他 | 41,534 | 127,977 |
| 固定負債合計 | 635,489 | 620,348 |
| 負債合計 | 8,928,476 | 8,797,753 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年 3月31日) | 当第1 四半期連結会計期間 (平成23年 6月30日) |
|---------------|--------------------------|--------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,107,843 | 2,107,843 |
| 資本剰余金 | 2,331,387 | 2,331,387 |
| 利益剰余金 | 3,364,144 | 3,317,164 |
| 自己株式 | △121,784 | △121,913 |
| 株主資本合計 | 7,681,591 | 7,634,482 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △255,239 | △285,628 |
| 為替換算調整勘定 | △39,770 | △43,323 |
| その他の包括利益累計額合計 | △295,009 | △328,952 |
| 純資産合計 | 7,386,582 | 7,305,530 |
| 負債純資産合計 | 16,315,059 | 16,103,284 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) |
|-------------------------------------|---|---|
| 売上高 | 5,280,171 | 4,740,317 |
| 売上原価 | 4,229,111 | 3,794,279 |
| 売上総利益 | 1,051,060 | 946,037 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,020,977 | 937,833 |
| 営業利益 | 30,082 | 8,204 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1,609 | 1,465 |
| 受取配当金 | 16,244 | 12,312 |
| 受取賃貸料 | 5,475 | 5,475 |
| その他 | 2,118 | 4,345 |
| 営業外収益合計 | 25,447 | 23,598 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 3,985 | 3,724 |
| 為替差損 | 207 | — |
| 賃貸用資産減価償却費 | 3,183 | 2,581 |
| その他 | 1,084 | 1,100 |
| 営業外費用合計 | 8,460 | 7,405 |
| 経常利益 | 47,069 | 24,397 |
| 特別損失 | | |
| 災害による損失 | — | 2,333 |
| 固定資産除却損 | 409 | 6,920 |
| 投資有価証券評価損 | — | 152 |
| ゴルフ会員権評価損 | — | 825 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 38,928 | — |
| 特別損失合計 | 39,337 | 10,230 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 7,731 | 14,166 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,822 | 2,347 |
| 法人税等調整額 | 7,845 | 9,453 |
| 法人税等合計 | 9,668 | 11,800 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△) | △1,936 | 2,365 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △1,936 | 2,365 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日) |
|---|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△) | △1,936 | 2,365 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △92,846 | △30,389 |
| 為替換算調整勘定 | △7,278 | △3,553 |
| その他の包括利益合計 | △100,124 | △33,942 |
| 四半期包括利益 | △102,061 | △31,577 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △102,061 | △31,577 |

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。